

2023年度 織田調理師専門学校 自己評価報告書

作成日 2024年4月1日

はじめに

2023年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亘る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。

本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 すぐれた人格と豊かな情操を有した人材の育成。

目標 国民の食生活の向上に奉仕する調理師としての、十分な技能を習得させるとともに、広い視野に立った学識を教授する。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

- ・より実践的な教育内容と食の安全の向上を目指し、調理技術並びに専門的な衛生管理の修得。

1. 教育理念・目標

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	現場経験豊富な教員と業界で活躍する現役の講師による視点を取り入れ、具体的に取り組んでいる。また、校外実習をカリキュラムに取り入れ、学生自身が現場のニーズを感じながら技術を習得できる環境を用意した。	今後もこの姿勢を継続していく。
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	3つのポリシーの再確認を検討しつつ、定められたものをWEBサイトで公開している。	引き続き最新のものをWEBサイトで公開していく。
コメント			
特になし。			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	調理師法に基づき、コンプライアンスを徹底し、実践している。	この姿勢を継続していく。
外部関係者の評価を有効に活用できたか。	4	学校関係者評価については、内部で共有し、活用できるものについては適宜検討している。	今後も可能な範囲で引き続き検討していく。
カリキュラムや学習環境が正しく機能しているか。また、時代の変化や社会のニーズに合わせたカリキュラムの見直しが行われたか。	4	2年制学科の科目において、現代社会に合ったカリキュラムの編成を引き続き行っている。今年度より、感染症蔓延前に実施していた校外実習を再開した。	この姿勢を継続していく。
定員が適正に設定されているか見直し、検討されたか。	4	適正に設定され、運営している。	引き続き、少人数であっても充実した教育環境を用意する姿勢を継続していく。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	クラウドワークフローシステム等が整備されている。	学内システムを使用しての申請書類提出や稟議提出などは問題なく機能している。
コメント 特になし。			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	教育理念を基本としたカリキュラム編成がなされている。	今後もこの姿勢を継続していく。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	各学科の特長を生かし、適正にカリキュラムの編成を行っている。	今後もこの姿勢を継続していく。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	現場経験豊富な教員と業界で活躍する現役の講師による視点を取り入れ、実践的な職業教育を実施している。	今後もこの姿勢を継続していく。
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	一般に向け、販売実習を行うなど実践的な職業教育の機会を設けている。全ての学科で専門調理師資格取得を目標に、技術考査を実施している。また調理師感染症の影響により3年間実施できていなかった校外実習を再開した。	今後もこの姿勢を継続していく。
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	各期末のテストだけでなく、卒業作品展等を開催することで学生達の技術の進歩を公開する機会を設けている。	今後もこの姿勢を継続していく。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。年2回成績表を学生に情報共有している。	特になし。
教員間で授業視察を行いスキル向上や相互理解を深める機会があったか。	3	実習教員と座学教員が互いに学びあう機会を設けている。学生支援についての講習会に参加した教員が資料内容を教員間で共有するなど外部セミナーの情報の収集を継続した。	今後も教員のスキル向上のために外部のセミナーに積極的に参加して行きたい。また、教員間の連携を密にし、学生個々に対する指導力を高めていきたい。
トレンドに沿った料理や調理法を知るための外部講師による講習会等の開催があったか。	4	今年度は、じゃがいもを活用した料理講習を行い、食品ロスや環境保全を意識した持続可能な調理法に触れる機会を設けた。	今後もこの姿勢を継続していく。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	調理に関連する新たな免許を取得した教員もいる。	さらなるスキルアップを目指し、研修等に参加したい。
コメント			
授業内容は本来のカリキュラムで進行することができた。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	奨学金等の各種支援制度について学生に周知した。また公的な機関による税に関する講習会を行った。	今後も支援を必要とする学生に適正に行き届くよう継続していく。
教育支援の充実化は図れたか。	4	放課後に実習室を開放し、自主練習等の指導を行っている。個別指導も実施し、学生個々の技能習熟に力を入れている。	今後もこの姿勢を継続していく。
就職支援の充実化は図れたか。	4	学内就職説明会を実施し、早い時期から就職の意識づけをしている。求人情報は紙媒体だけでなくキャリアマップ等を活用し、インターネットを利用した就職活動支援も行っている。オンラインでの説明会や面接のサポートなど行った。	今後もこの姿勢を継続していく。
<p>コメント</p> <p>しばらくオンラインが中心だった就職活動が本来の対面形式に戻ったので、身だしなみ等のビジネスマナーについて指導を行った。</p>			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	3	精神的に不安定な学生のサポートに努めたが、残念ながら退学を選択した学生もいた。また、経済的な理由で退学となった学生もいた。	メンタルサポートや利用できる制度の周知などを行い、退学者数0を目指し、指導していく。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	提携機関の冊子の配布や関連情報の掲示を行った。また、担任による個別対応を行い、必要な学生にメンタルヘルス相談窓口を紹介している。	今後もこの姿勢を継続していく。
卒業生への支援体制はあるか。	4	卒業後も転職の相談やキャリアに見合った求人情報の提供を行っている。また、WEBでも求人情報の閲覧が可能となっている。学校行事に卒業生を招待し、関係継続の取り組みも行っている。	学園祭など、卒業生が訪れる学校行事を通じて、より関係の強化に努めていきたい。
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	毎日の夕礼で学生の就学状況について情報共有している。	今後もこの姿勢を継続していく。
保護者との連携は適切だったか。	4	遅刻や欠席が目立つなど個別に対応が必要な学生には担任教員が面談を行い、保護者とも情報を共有して指導している。	今後も学習支援や学習環境の整備といった対応について、可能な範囲で保護者と連携していく。
<p>コメント</p> <p>精神的な不調を抱えた学生が年々増えており、個々の学生ごとに対応していかなければならないため、教員間での情報共有と学習支援について強化していく必要がある。</p>			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	キャリアマップおよび、スクールリーダーの利用でインターネットを中心にしたスムーズなやり取りが可能となっている。	今後もこの姿勢を継続していく。
学校内に同窓会担当者を設置しているか。	3	特定の担当者を設置してはいないが担任教員が卒業生の動向を把握している。学校行事の際は同窓会室を設け、卒業生の動向を調査した。	同窓会を実施するなど、恒久的な関係維持の機会を検討する。
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	現場仕様の調理器具を設置し、大型調理器具等の使用方法等も学べる環境を整備している。水や食糧などの災害備蓄品の確保もされている。	校舎の経年劣化への対応策を検討するタイミングにきている。
<p>コメント</p> <p>今後は普通教室にモニターを設置するなど時代のニーズに沿った視覚教育の整備を検討したい</p>			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
OC参加者の増加は達成できたか。	4	昨年度と比較し、オープンキャンパス参加者が増加した。	引き続き時代のニーズに合った内容で開催していきたい。
OCからの取り込み率は向上できたか。	2	先の項目で挙げた施設の老朽化によって設備面で他校より劣る部分もあり、それも一因ではないかと考える。	在校生の協力を得ることで、きめ細かいフォローができる体制を作っていく。設備の入れ替えに関しても検討していく。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	OC開催に伴う事前の打ち合わせを行い、実施後は改善について意見交換するなど共有している。	今後もこの姿勢を継続していく。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	入学案内、ネット情報、DMの内容等について一貫性を図り、より多くの方にOCに参加してもらえるよう取り組んでいる。	今後もこの姿勢を継続していく。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	入学案内制作に関する意見交換を重ね、共有してすすめた。	今後もこの姿勢を継続していく。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	情報の共有に努め、OC参加者に学校の魅力が効果的に伝わるよう連携して取り組んだ。	今後もこの姿勢を継続していく。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	協力してもらった在校生とも事前に打ち合わせを行い、対応スキルの向上に努めている。	今後もこの姿勢を継続していく。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	入学検討者とコミュニケーションを取っている広報部と情報を共有し、時代に沿った実習内容やスケジュールを検討・実施している。	今後もこの姿勢を継続していく。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	3	学校行事が再開されたことや学生の協力により、SNSの更新頻度が増えた。	今後もSNSを活用して認知の幅をさらに広げていきたい。
<p>コメント</p> <p>今後は留学生担当者とも情報を共有し、外国人留学生の対応も強化していきたい。</p> <p>取り込み率向上に関する対策については、幅広い視野を持って検討し、情報共有の上、実行に移していきたい。</p>			

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	収支状況をすべての教職員で共有している。収入増、経費節減について各部署で意識して取り組んでいる。	教育の質を維持し、向上させるためにも収入増の施策について考える必要がある。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行い経費節減に着手した。	効果的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような仕組みづくりに努めたい。
コメント 特になし。			

9. 法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	法人に「コンプライアンス規程」を明文化し、教職員間で共有している。	今後もこの姿勢を継続していく。
自己評価の結果を公開しているか。	4	自己評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
コメント 今後も財務情報や自己評価報告書等の学校情報を公開し、適切な学校運営を継続させていく。			

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	4	今年度もアールブリュット展に協力し、学生が美術作品から着想したイメージを料理や菓子で表現した。また、学園祭や販売実習を通して、地域に料理、菓子、パン等を提供している。また地方公共団体と連携した特別講義も行った。	今後も販売実習等は継続し、地域の方々に食の文化や食の楽しさを提供する機会を提供していきたい。
コメント 今後も販売実習等を通じて、中野のまちづくりのために貢献していきたい。プラ製品の使用を控える、節電に取り組むなど、SDGsを意識した環境貢献についても実施している。			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	3	留学生専門職員を配置し、適切な対応をしている。	今後も留学生担当職員と連携を取り、留学生の受け入れに関しても前向きに取り組んでいきたい。
<p>コメント</p> <p>留学生対応の専門の職員がいるため、日本語のコミュニケーションに不安がある学生や生活面でサポートについても個別対応ができています。今後も適切な対応を継続させていく。</p>			

おわりに

就職活動については、飲食業界の慢性的な人材不足が影響し、採用時期が以前に比べさらに早まっている。それに伴い、学生への就職指導も早い時期から行っている。求人倍率も上昇しており、就職希望者に対する就職率は100%であった。業界の動向としては人材獲得のため各社ベースアップに着手しており、職場環境の改善により働きやすい環境に変化していることから、離職率が低下していると考えられる。

個人店や専門店へ就職を希望する学生は減少し、ホテルや給食などの企業への就職希望が増加した。自宅からの通勤を希望するなど、就職する地域を限定する学生も依然として多く、安定志向が根強い。

食料やエネルギーの高騰による物価高の影響は大きく、調理業界にも厳しい時代背景となっている。食品ロス対策や節電など、身近な取り組みから授業体制を見直していきたい。